



Renaissance ルネッサンス

くるさき

No.50
2023.1

副都心黒崎開発推進会議

発行/副都心黒崎開発推進会議 広報委員会
事務局/北九州市八幡西区黒崎3-15-3 ヨムシティ5F TEL/FAX093-642-1001

みずのと う



「癸卯」更なる価値づくりへ 飛び跳ねよう！

★癸卯(みずのと・う)・・・2023年の干支。

干支は10種類の十干(じっかん)と12種類の十二支の組み合わせからなる。「癸卯」の意味は、これまでの努力が花開き、実り始めることを指し示している。

丸の内プラチナ大学 トライアル逆参勤交代 北九州市黒崎地区フィールドワーク

丸の内プラチナ大学 副学長、三菱総合研究所 主席研究員 松田 智生

丸の内プラチナ大学とは、首都圏のビジネスパーソンが集う市民大学であり、三菱総合研究所と東京の大手町・丸の内・有楽町地区の街づくり団体のエコツェリア協会が主催している。観光、農業、SDGs等多様な講座のなかで、私は「逆参勤交代コース」の講師を担当している。

逆参勤交代とは、江戸の参勤交代とは逆に首都圏から地方への期間限定型滞在である。江戸の参勤交代は制度により地方から江戸への人の流れを創り、江戸に藩邸が整備され、全国に街道や宿場町が整備された。これを逆にすれば、北九州市に新たな人の流れが生まれ、消費や雇用創出、オフィスや住宅の建設需要、ホテルや交通機関の稼働率が高まることになる。人口が減少する日本では、都市と地方での人材の争奪でなく共有だ。逆参勤交代は、人材循環と共有による地方創生の切り札である。

2017年から開始した実証実験のトライアル逆参勤交代は、全国で15自治体になるが、今回、福岡県初の逆参勤交代を北九州市で2泊3日の行程で実施することになった。事前に東京での北九州市講座で市の魅力と課題を学んだ20代から60代の受講生12名が参加し、5名は初の北九州訪問である。

黒崎地区のフィールドワークでは、広大なアーケード街に圧倒されながら、黒崎の魅力と課題をリアルに体感した。また空き店舗をキッチンやシェアハウスにリノベーションした事例を学び、副都心黒崎開発推進会議の山口会長をはじめ街づくりや人材育成を担う地域の方々との意見交換では、これから街をどのように活性化していくか活発な意見交換がなされた。そして夜の懇親会では、北九州の海の幸を堪能し、昼には見せなかった陽気な一面を見せる参加者も多数いて、黒崎地区と首都圏との多世代交流の場となった。

最終日には、北橋市長と黒崎地区の関係者向けに、参加者から地域活性化のプレゼ

ンを実施した。プレゼンのルールは自分主語だ。それは「北九州市はこうすべき」「黒崎はこうすべき」という他人主語でなく、「私は黒崎のためにこれをしたい」、「わが社の技術やサービスでこれが貢献できる」といった自ら主体的に関わる姿勢である。

プレゼンでは黒崎地区の活性化に対して、「食材と食歩歩き」、「公共空間の利活用」、「空き店舗の一括借上げ」、「太陽光発電」等の自分主語の提案がなされ、市長からも幾つかの提案に対して具体的検討の講評がなされた。

今回、参加者と黒崎地区には「良い化学反応」が生まれたと感じる。いつも決まった顔ぶれ、同じ価値観や経験では、イノベーションは起こらない。異質な人材との刺激のなかで新たな街づくりの発想が生まれ、また参加者も黒崎地区の先駆的な取組や人材から大きな気づきを得ることになる。福澤諭吉が残した「半学半教」という言葉は、師弟の分を定めずお互いが学び合い教え合うことだが、今回の体験はまさに参加者と黒崎地区との「半学半教」の場であったと言えよう。

逆参勤交代は新たな「縁」と「運」と「恩」を繋いでゆく。今回新たな縁が生まれ、そこから良い運が生まれたはずだ。この運に対してなすべきことは黒崎への恩返しである。次のステップは、①一過性のイベントにせず「続けること」、②今回の提案をお互いに「深めること」、③他地区や自治体との広域連携で「広めること」だと考えている。

逆参勤交代は、私のライフワークであるが、首相の所信表明演説に「逆参勤交代」という言葉が出るまで粘り強く推進するつもりだ。今回の黒崎地区フィールドワークが、黒崎と参加者にとって新たな気づきやこれから一歩踏み出すきっかけになれば、これほど嬉しいことはない。

多様な課題を抱えた地域の課題解決はそれぞれの課題に当事者として取り組む多くのチームが必要です。その意味ではイベントは情報共有と関係性と共感の場として機能はしているものの「にぎわい」の先の「いとなみ」にどう繋げていくかが課題ではあります。

「ハレ」から「ケ」へと日常の中での地域のウェルビーイングとは？

「重々帝網」多様なチームが相補的に連携して繋がった有機的な地域を目指したいものです。社会の変化や文化の醸成には当事者ばかりではなく「マレビト」が必要ということで、新年の講演会では、メディアでも話題の革新的な提案をされているNext Commons Lab の林篤志さん (<https://www.businessinsider.jp/post-258008>) をお迎えし新たな社会像を提案して頂きます。

これからの地域を考える上でのキーワードとして以下の4つを提案いたします。

- 越 境 (組織、利害関係、世代を超える)
- 逸 脱 (過去の成功体験や方法を踏襲するのではなく新たな方法や組織を目指す)
- 妄 想 (想像力は想像の域を超えない、思いっきり創造的な妄想を)
- 依怙最良 (えこひいき、弱さに着目して依怙最良する、社会に寛容さを)

地域の皆様のご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

本市では、令和4年3月、小倉や黒崎、東田地区において、概ね30年後のまちの方向性を示す「2050まちづくりビジョン」を策定しました。また、ビジョンの実現に向けて、民間開発の誘導と企業誘致の促進を重点的に図るため、開発補助と規制緩和を行う事業「コクラ・クロサキリビテーション」をスタートさせました。

まちづくりビジョンでは、黒崎地区の目指す方向性として「多様性を認め合い、支え合う、みんなが住みたくなるまち」を掲げています。その実現に向け、今後とも市民・民間企業の皆様と協力して、魅力ある黒崎のまちづくりに取り組んでまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

本市は今年、市制60周年を迎えます。この1年間、「みらいつなぐ北九州」をキャッチフレーズに、これからの未来を創造し、今後一層の発展につなぐ取組を進めてまいります。

結びに、副都心黒崎開発推進会議の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝をお祈りし、挨拶とさせていただきます。

「にぎわい」の先の「いとなみ」に どう繋げていくか

副都心黒崎開発推進会議 会長 山口 典 浩



平素より副都心黒崎開発推進会議の活動にご支援ご協力ありがとうございます。昨年より会長職をさせて頂きまして、「初心忘るべからず」(初心とはこれまでのやり方を捨て去る覚悟のこと)をキーワードに自律分散型組織を目指して組織の再構築と運営の見直しをやってまいりましたが、緒に着いたばかりで試行錯誤の連続の状態でもまだまだ改革の兆しは見えていない状態です。一方地域での活動は数々のイベントや活動が実施されて地域を思う方々が活躍されています。

果たして地域の活力と持続可能性には何が必要なのでしょう？

希望あふれる未来につなぐ 黒崎のまちづくり

北九州市長 北橋 健 治



新年あけましておめでとうございます。副都心黒崎開発推進会議の皆様には、日頃より、黒崎のまちづくりに熱心に取り組んでいただき、厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が収束しない中、昨年は、3年振りとなる「黒崎96の日」の乾杯大会、商店街での「第1回黒崎シュガーパン祭り」や「黒崎子ども商店街」、曲里の松並木公園での「黒崎宿場夜市」などの様々なイベント等が開催されました。黒崎のまちに元気、活気が戻り、多くの世代の方が集い、つながる場が生まれたことは、

黒崎のまちづくり



八幡西区長 神野 洋一



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

副都心黒崎開発推進会議の皆様には、日頃から様々な活動により、黒崎のまちづくりに多大なるご尽力をいただいております。厚く御礼申し上げます。

昨年は、コロナ禍の影響で開催が見送られていましたイベント・行事が続々と開催され、明るい兆しの見えてきた一年となりました。

黒崎地区においても、皆様が中心となって取り組まれている「黒崎96の日」乾杯

大会をはじめ、黒崎祇園山笠や黒崎よさこい祭り等が3年ぶりに盛大に開催されるなど、副都心黒崎のエネルギーを改めて感じました。

さて、私は昨年4月の着任以来、各所の挨拶の際に「黒崎は副都心で八幡西区の顔、まちの中心には賑わいが必要だ」と話してまいりました。

黒崎の強みは、交通の要衝であり、生活・文化・医療などの環境が充実していることに加え、副都心黒崎開発推進会議をはじめとする各団体の皆様、まちの活性化に向けて汗をかき、協力して各種事業に取り組んでいただいていることだと思います。

今年市制60周年の節目の年となります。八幡西区役所としても、市民がまちに愛着と誇りを感じられるよう、副都心黒崎を彩る「KUROSAKI」のモニュメントと黒崎駅前ペDESTリアンデッキのイルミネーションを新設しています。

今後も、皆様と連携して、明るい未来のため全力で取り組んでまいりますので、引き続き副都心黒崎開発推進会議の皆様のご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新春公開講演会と意見交換会

『信頼が資本になるこれからの社会』

講師：公益財団法人信頼資本財団 理事長、アマホールディングス株式会社 代表取締役兼CEO 熊野 英介氏

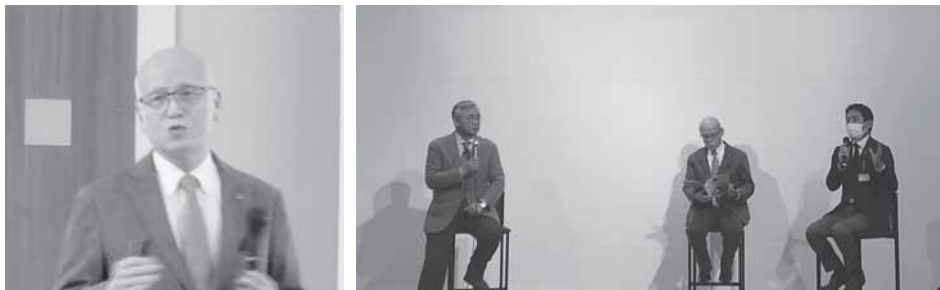


2022年1月20日、ホテルクラウンパレス北九州での公開講演会に合わせ、初の試みとしてインターネットでの同時配信を行いました。

講師の熊野さんは、これからの社会は信頼が資本になるという考えのもと信頼資本財団を立ち上げ、社会課題を解決する活動に対して無利息、無担保、無保証人の融資制度やA-KIND未来設計実践塾を開催し社会事業家や行政職員への教育実践の場を提供しています。

また、アマホールディングス株式会社は環境ビジネス分野のトップランナーとして「自然と人間関係資本の増加に資する事のみを行う」という素晴らしいミッションのもと実践でチャレンジし続けています。

講演では、「人との繋がり、信頼が社会、経済を作る。価値の科学、哲学を今こそ考えるとき。」を唱えられ、とても奥深い内容でした。意見交換会のパネリストは、北九州市建築都市局の正野氏と当会の山口会長。行政のまちづくりビジョンに鋭く斬り込んだ、活発な意見交換がされました。



副都心黒崎開発推進会議 講演会

『北九州経済の課題と中長期的展望』

講師：日本銀行北九州支店 支店長 畠中 基博氏



2022年10月25日、ホテルクラウンパレス北九州にて講演会を開催しました。

子育て支援などの施策が奏功してか、出生率が全国平均より高いことや、DX推進や再エネ産業の企業誘致に適しているなど、北九州市のポテンシャルを再発見。黒崎地区においても人口増やテクノロジー関連企業が多いなど、再発展の可能性も示されました。

また、来場者の方からは住み続けたいと思う街づくりの提唱や街の廃墟となったメイトビルの問題など、活発な意見も出されました。



黒崎96の日 2022

黒崎96の日実行委員会 実行委員長 下澤 政宏



新型コロナも若干の落ち着きを見せ、全国各地で「3年ぶり～」のイベントが開催されるようになる中、今年で7年目を迎える「黒崎96の日」も3年ぶりの乾杯大会を実施することとなりました。

私は、実行委員長として初めての「乾杯大会」。何を決めるのか、何を決めないといけないのか。いたずらに時間だけが経過していきましたが、実行委員会・商店街・行政の皆様にご協力いただきながら一歩ずつ進めることができました。

しかし、開催日が迫る中、まさかの台風11号が前日～当日朝にかけて福岡県に最接近となり、乾杯大会も開催が危ぶまれましたが、前日ギリギリで「開催！」を決断。午後からは台風一過となりましたが、新型コロナの影響で自宅待機となる実行委員メンバーもあり戦力が大幅にDOWNしましたが、急遽、沢山の方にお手伝いいただき、一部プログラムが中止となりながらもなんとか開催にこぎつけることができました。ステージでは「theLACK」のお二人による素晴らしい司会のもと、黒崎祇園太鼓によるスタートから徐々に盛り上がり、9月6日19:06に集まった約1,000人で盛大に「黒崎のまちに乾杯！」すると共に多くの志民の皆様がそれぞれの場所で「乾杯！」をしていただけたのではないかと思います。台風で順延となりましたが、翌日には初秋の夜空に「お祝い花火」を打ち上げ「黒崎96の日2022」は無事に終了することができました。

また、前回に続き「96の日応援Tシャツ」を作成し、その売上金全額(96,000円)を且過市場の復興支援に寄付させていただきました。

今回は、コロナ感染防止に注力しながらの運営に加え、台風の直撃という困難もありましたが、副都心黒崎開発推進会議の各会員様をはじめ、市内の多くの企業からご協力をいただき、抽選会の景品、打ち上げ花火の資金を集めることができました。また、各事業についても、地元企業・学校・施設・団体の皆様にご協力いただき「できること」を持ち寄っていただき96の日を盛り上げていただきました。本当にたくさんの方に支えられました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



黒崎タウンシップカフェ

タウンシップ推進委員会 委員長 権頭 喜美恵



令和4年5月12日に第1回目から、まだ、数回しか開催出来ておりませんが、カフェに参加してくださった学生が、若い人でも同じようなカフェをしたいとの話があり、現在、第4土曜日のお昼に『リボンカフェ』として行われています。今、変革の時期にある社会の中で、若い人たちの純粋な声は貴重です。求められない助言や口出しをせず見守っていきたく考えています。

このカフェでは、「お茶を楽しみながら、和やかに、時には熱くさまざまなテーマをもとに大好きな黒崎のことについての自由な語り合い」ということで、多世代、異業種の方とともに、黒崎にある社会資源の発見、共有すること、そして、具体的には黒崎メイト跡、松並木、他、具体的な課題についてを自由に議論し、行政や企業などに投げかけ、実際に動いていけるようなチームを目指していきたいです。

今後ですが、無いもの無い事を新たに創造するというよりも、まずは、あるものある事を活かしたまちづくりという方向性から進めていきたいです。固定されたメンバーでは、知識情報も広がらないので、もっと開かれたカフェとして周知していきたく思います。もっと若い人達の声をお聞きしたいので、時には、リボンカフェとの共催も計画したいです。

また、タウンシップ推進委員会の今までの活動に、「地域づくりマネージャー養成塾」がありました。講師を招いての講演会を主としておりました。現在、副都心黒崎開発推進会議では、講演会の開催の企画もあることから、養成塾に代わるものとして、「繋がるまちづくり大発表」を計画しています。「タウンシップカフェ」や「リボンカフェ」も含めて、実際にこの地域で活動したい人、地域づくりや社会貢献活動をしている団体、個人、企業などに発表の場をつくり、人と人、活動と活動を繋げ、タウンシップの輪を広げたいと思います。



第6回黒崎まちゼミ

黒崎まちゼミ 実行委員長 満永 恵太



「得する街のゼミナール=まちゼミ」は、商店街などのお店の方が講師となって、お店の専門知識やプロのコツを無料で教えるミニ講座です。黒崎では、過去6回まちゼミを開催しており2022年2月開催のまちゼミでは、参加した20店舗が22の講座を行い、このコロナ禍の中、250名を越える方々に来店していただきました。アンケートでは、99%の方に満足とのお声をいただいております。お店の講師の方からも「お店に初めて来られて喜んでいただき再来店につながった」と、【お客様】【お店】【地域】の三方よしの事業となっております。2023年2月には第7回まちゼミが開催されます。お店の方々もお客様に喜んでいただける講座を準備して心待ちにしています。是非ご参加下さい。



黒崎よさこい祭り2022

黒崎よさこいまつり 実行委員長 入江 真一



5月14～15日の日程で14回目となる「黒崎よさこい祭り2022」を開催しました。12～13日はコロナ禍のため中止、三年ぶりの開催のなか、土日合わせて53団体約930名が九州中国地域さらに大阪府や愛知県からも集まり、各団体特徴のある演舞を繰り広げました。今回は未だ止まぬ新型コロナの影響で直前まで悩みましたが①徹底したコロナ対策を行うこと②それに伴い大幅縮小での開催とすること、を条件として開催を行いました。一日目の14日午後は初めての試みとして、北九州市立大学よさこいサークル主催の「青春の宴」を開催、九州山口の14大学が参加して、若さ溢れる演舞を繰り広げました。二日目の15日は多くの参加チームがオリジナルの演舞を繰り広げ、久しぶりに街中が賑やかになったと思います。特に学生が広域に土日の参加をと大学チームに声を掛けてくれた結果、宿泊者が約300名と大幅に増加しました。来年以降、更に当祭りへの参加者が増えてくるように思います。最後に、コロナ禍が早く収まることを祈りつつ、多くの関係者の皆様のお力添えて盛大かつ無事に終了しましたことを実行委員会一同感謝いたします。



されど、黒崎祇園山笠!!

黒崎祇園山笠保存会 会長 岡田 良夫



令和4年7月初旬。まだまだコロナウイルス感染拡大中の黒崎祇園山笠行事。一時は下火になったのに。なぜ、また今頃拡大するの。。。ハラハラどっきどきの子ども太鼓競演会。演舞をされる子どもさんたちは、大丈夫か？

三年ぶりの祇園山笠競演会。いつになく山盛りの観客の数。コロナ感染拡大は？厚生省との駆け引きも四か月に及び、果たして山笠行事は開催できるのか？行政にしてみれば、見送りが正解なのか？コロナウイルス感染者、濃厚接触者を拡大させたら？開催にこぎつけたのは競演会の1週間前。中止ならば半年前からの準備は？大変な時期での黒崎伝統の「黒崎祇園山笠」。

東京、名古屋、神戸、岡山、広島、遠方よりお見えになっている観客の皆さまにも喜んでいただける山笠を山笠関係者一同、一丸となり地元にも恥じない絢爛豪華な山笠行事を粛々と執り行うことができ、山笠行事を支えていただきましたご町内会、ご協賛いただきました事業所の皆さまには心より感謝申し上げます。

まだまだ、コロナウイルス拡大は縮小の気配がありません。来年度も今年同様、いやそれ以上の「黒崎祇園山笠」行事を執り行いたいと願っております。何卒、より多くのご声援とご支援を未来を担う彼らに。よろしく申し上げます。



第11回黒崎子ども商店街

黒崎商店組合連合会 副会長 田中 大士



2022年11月12日土曜日、第11回黒崎子ども商店街を開催しました。当日は汗をかかほどの天気になり、1万4000人ほどの来場者が街に来てくれました。

イベントの始まりは2011年10月、熊手銀天街、藤田銀天街の2つの商店街で開催していました。当初はイベントの1つとして開催していましたが、街全体を使ったほうが良いと考え、JRや筑豊電気鉄道他、様々な企業に参加してもらい、9つの商店街なども加わり街全体でのイベントになっていきました。そのころから11月第2土曜に固定され、2020年を除き2022年で11回目を迎えました。対象は小学生、北九州市の小学校をはじめ、遠賀4町、鞍手、宗像、など市内外から応募があります。

当日は会場に設置された子どもハローワークで職業を選び、働いた後に税務署、銀行に行き(銀行で通貨をもらう)、その後、街で買い物という大人が日常行っている事を体験してもらいます。自衛隊や警察、消防などの無料体験やたくさんの店舗が出店してくれています。また、初めて黒崎に来る人も多く、日頃から商店街に人が来てくれたらと感じています。

これまで12年関わってくれた方のおかげで続けていく事ができました。これからはイベント自体も見直し、賑わいが持続する仕組みを検討しないといけないと感じています。



黒崎曲里の松並木常設ライト設置

チーム松並木 代表 武智 充



地方ではその土地ならではの事業を行い、雇用を増やし地域社会を活性化させることが近々の課題となっており、黒崎の街の活性化は待ったなしの状態にあります。このような背景から黒崎の松並木を活用してなんとか「人が楽しめる場所をつくる」という発想が生まれました。それを形にするため、黒崎とその周辺に住むひと、働くひと、関係のあるひと、また黒崎をこよなく愛する人たち、有志を集めて活動しています。

現在の黒崎には安心して運動を楽しめる公園がありません。またアフターファイブなど仕事が終わった後の時刻から、飲食店等で飲んだり食べたりする以外に、遊んだり買い物をしたり体験したりするお店や場所ありません。このように現在の黒崎には「皆が健康的に過ごす公園」と「夜に食事以外で楽しめる場所」を創出する必要があります。

北九州市の指定史跡であり、荘厳な景観な曲里の松並木という絶好のロケーションを持つこの場所を、人々が日常的に「散歩や運動で健康的に過ごす公園」や「夜に食事以外で楽しめる場所」にすることを目的に、現在地元有志の皆さんのおかげで、山手通り側松並木入口に常設のLEDライト4個が設置されており、毎晩夜間ライトアップが行われています。ぜひ幻想的な雰囲気をお楽しみください。



第24回ヤングサタ開催御礼

(一社)北九州青年経営者会議 第62期会長 小田 泰三



12月18日(日)、今回で24回目となるヤングサタを開催させていただきました。今季一番の寒波の訪れで雪の降る中、35名のボランティアサタさんにご協力いただき、今年2月で任期満了を迎え16年間私たちヤングサタにエールを送り続けていただいた北橋健治北九州市長にもご臨席いただきました。

10月に多くの皆様にご協力いただき開催させていただきましたチャリティー吹奏楽ポップスコンサートでお預かりしたチャリティーをもとに今年は、児童福祉施設8施設、発達支援事業所2施設、小児病棟2病棟の合計12施設と一般家庭34世帯へ訪問し、800名を超える子ども達にプレゼントをお届けさせていただきました。

ヤングサタ事業にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。一連のヤングサタ事業を通じて、私たち北青会の活動は多くの方々のご協力により成り立っていること、そして、少人数であっても各会員が自分の役割を把握し意識を持って活動をおこなえば最大限の成果が得られることを実感することが出来ました。

今年はヤングサタ25周年と北九州市制60周年という2つの大きな記念を迎える年となります。北九州のサタクロスは来年も全力で事業成功に向け努力し、子ども達に笑顔と夢をお届けさせていただきます。今後ともよろしくごお願い致します。



福岡県警察繁華街創生プロジェクトの取組について

繁華街創生プロジェクト 管理官 安川 大介

福岡県警察繁華街創生プロジェクトが発足し、地域や行政の皆様方とともに各種取組を始めて、8年目を迎えました。

昨年、当プロジェクトでは「安全・安心な繁華街づくり」の一環として、繁華街の客引き問題に着目し、官民一体となった客引き防止看板の設置や抑止活動に加え、関係者を対象とした研修会等を実施して参りました。

また、黒崎繁華街における暴力団員立入禁止標章の掲示促進、繁華街関係団体や組合の規約等に対する暴力団排除条項の導入促進にも取り組んで参りました。

本年もプロジェクト員一同、八幡西警察署と協同してパトロールや清掃活動をはじめ各種活動を通じて、暴力団を寄せ付けない、健全で魅力ある黒崎繁華街の実現に向けて尽力して参りますので、引き続き、皆様の御理解、御協力をお願い申し上げます。



委員会インフォメーション

○組織活性化委員会 委員長：向井 明

数年かけて、「地域で活動されている様々なコミュニティ」をつなぎ、『人・物・金』を個人個人が自主的に協力と支援ができる組織とプラットフォームを構築します。

○タウンシップ推進委員会 委員長：権頭 喜美恵

定期的なタウンシップカフェの企画と「繋がるまちづくり大発表」を計画しています。さらに、人と人、活動と活動を繋げ、輪を広げたいと思います。

○広報委員会 委員長：河野 俊毅

コロナ禍での制限や自粛が緩和されるなか、黒崎祇園をはじめ地域行事やイベントも活発になってきました。広報委員として、タイムリーな情報発信を心がけ、微力ながら黒崎の活性化の一助になればと思います。皆さんからの、様々な情報提供をお願い申し上げます。

☆ホームページのご案内☆



当会と黒崎のまちの最新情報は、
こちらをぜひご覧ください！

<https://k-fk.jimdo.com/>



この度は『ルネッサンスくろさきNo.50』の発行にあたり、年末年始の大変お忙しい中、各方面の皆様よりご寄稿にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

今後とも副都心黒崎開発推進会議の貴重な情報発信ツールとして、ホームページ同様充実した内容で情報の提供を続けて参りますので、ご協力の程お願いいたします。

広報委員会

副都心黒崎開発推進会議 会員企業トピックス！

安川電機みらい館 「小学生 社会科見学 再開！」

安川電機みらい館 館長 小手川 寿朗

22年6月から小学生を対象とした来場型工場見学を再開し、早速、黒崎中央小学校の5年生にもご来館いただき、未来のロボットの企画提案を多くいただきました。

他の工場が社会科見学を受入れていない中で、弊館の受入が開始となり、多くの学校の先生から非常にありがたいとの感謝の声を頂戴し、また、子供たちもとても楽しみにしているとお言葉も多くいただき、スタッフ一同やりがいを感じています！

工場の生産ラインも一新し、人協働ロボットが人と同じスペースの中で、人と協力して組立てを行なっています。

9月にはロボット村オープン以来の累積ご来館者数が17万人を超えました。

これからも弊社は、次世代のものづくりを担う人材の育成に貢献してまいります。



黒崎は生が旨い！

株式会社 河村酒販 代表取締役 井上 真喜子

河村酒販が目指す「まちづくりビジョン」です。

黒崎には約1,000の飲食店がありますが、どの店に行ってもお客様が最初に飲まれる一杯は、感動の生ビールになります。

このブランド価値をつくるため、2022年に黒崎未来プロジェクトと協力してCAMS前広場に「カムズビアガーデン」をつくりました。8月11日から12月27日の5ヶ月間、たくさんの方にご利用頂き心から感謝申し上げます。

2023年も日本一旨い生ビールを提供するために、樽生インストラクターが生ビールの旨さを追求していきます。黒崎に新しいブランド価値をつくり、もっと魅力的な人がにぎわうまちをつくりましょう。生ビールを大好きな人がたくさん黒崎に来てくださるよう、そして、まちが明るく元気になりますように、酒屋として精一杯努力精進致します。 本年もどうぞよろしくお願い致します。



黒崎駅から元気を発信！

黒崎駅長 宮田 匡

現在の黒崎駅は、以前と比較するとお客さまが戻ってこられているのを実感していますが、まだまだの状況です。私が赴任以来、駅を中心とした賑わいづくりに取り組んでまいりました。恒例となった由布院&黒崎のスイーツフェアは3回目を迎え、毎回100名以上のお客さまが並ばれる人気イベントに。また、継続して取り組んでいるJR九州ウォーキングも毎回1,000名以上のお客さまにご参加いただいております。中でも、地域の企業・団体の皆様にご参加いただいた、黒崎祇園の盛り上がりを祈念した「打ち水」、黒崎96の日記念の「玉入れ大会」は、駅前での盛り上がりとともに多くの方々喜んでいただきました。これからも駅から元気を発信し続け、黒崎の賑わいづくりに邁進してまいります！



黒崎播磨陸上競技部 ニューイヤー駅伝2023 総合14位でゴール

黒崎播磨株式会社 総務部 総務グループ 白石 雄輝

黒崎播磨(株)陸上競技部は、2023年元旦に開催された第67回全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝)に出場し、総合14位でゴールしました。九州地区予選を兼ねた第59回九州実業団毎日駅伝では創部62年目にして初優勝を果たし、九州王者として挑んだ大会でしたが、2年連続の8位入賞達成とはなりません。

優勝候補として注目を浴び、レースに臨みましたが、悔しい結果となりました。今大会で見つかった課題を今後生かし、再び優勝争いの一翼を担うよう精進してまいります。今後とも弊社陸上競技部へ熱いご声援をお願いいたします。



4区：主将 細谷 恭平 選手(27)

副都心黒崎開発推進会議

令和4年度 定例総会のご報告

さる、2022年7月27日(水)にホテルクラウンパレス北九州にて定例総会を開催しました。定例総会は最初に山口典浩会長の挨拶にはじまり神野洋一八幡西区長にご挨拶頂きました。

- 〈定例総会〉定例総会に付議された議案は
- 議案第1号 令和3年度 事業報告
- 議案第2号 令和3年度 収支決算及び監査報告
- 議案第3号 令和4年度 事業計画(案)
- 議案第4号 令和4年度 収支予算(案)



議案第5号 役員改選(案)

議案第6号 会則改正(案)

以上、6議案。いずれも皆様のご賛同を頂き承認されました。ただ、会則改正に関しては様々なご意見を頂きましたので、後の役員会で協議しご意見を反映した会則に改正致しました。

〈情報交換会〉定例総会後に山口会長の進行で情報交換会を開催しました。「副都心黒崎開発推進会議に何を求めるのか。」「地域コミュニティとは何か。」「地域コミュニティに求めるものは何か。」をテーマにミーティングが行われ闊達な意見が交わされました。会員PRタイムもあり、街の情報が共有されました。最後は岡林千夫副会長による挨拶で会を閉会いたしました。

〈御礼〉本総会に協賛広告を頂いた方々には、この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

寄付のお願い

副都心黒崎開発推進会議では、いつでも寄付を受け付けております。会費、寄付については「恩送り」の考えに基づいて運用させていただきます。趣旨ご理解の上、ご協力をお願いいたします。

お振込先：福岡ひびき信用金庫 黒崎支店 普通預金 1081941 副都心黒崎開発推進会議 会長 山口 典浩